

害を要切ものであることが、一般大衆の間に認識立てられた。茲に於てか、一方には組合運動を協調主義の邪道から、再び階級闘争の原則に引き戻さうとする少数運動は、若くして勢力を増し、今や一般組合員の大衆的運動となると同時に、他方には官僚階級の分裂政策に反対して、労働組合の国内的、國際的の結束を恢復する運動は、最近に於ける各階級運動の主流となつた。官僚階級は自己の地位を維持するために、極力組合運動の統一の實現を妨げてゐる。けれども労働階級の現勢の必要は、是等の組合官僚を無視して、組合運動の国内的團結と、國際的團結を實現するに違ひない。彼等官僚主義者が世界の組合運動から驅られるのは、たゞ時間の問題である。

二 我國資本主義の現勢

我國に於ける資本主義の現狀を顧みると、國際資本主義の一部としては、資本主義の一般的運命を辿つてゐることは明かである。それと同時に、我國に於ける資本主義の特殊な發達の結果として、特殊な意味に於ても、資本主義は行詰つてゐる。

即ち、我國の資本主義は、一方に於ては、資本主義の最後の發達階段たる帝國主義、反動主義の時代に達してゐる。少數の中心に集中せられた大資本は、今や國民の經濟生活、社會生活、政治生活の全體を支配して

ゐる。金融資本の勢力は日々にその支配の力と版圖を増してゐる。種々なる形の下に行はれてゐる軍國主義的施設の如き、無産階級運動を壓迫する暴法の如きは、要するに末期の資本主義に特有な反動主義の現れに外ならぬ。既に帝國主義の階段に達してゐる點に於ては、我國の資本主義は、世界の資本主義と同じく末期の衰亡期を辿つてゐるものである。

然るに他方には、我國の資本主義は、生産の編制に於ても、生産の技術に於ても先進國資本主義の達した水準に達して居らぬ。産業の機械化と、大工業化とは決して充分に行はれて居らぬ。この點よりすれば、我國の資本主義には、尙發展の餘地があり、尙踏むべき階段が残されてゐるかのやうである。然るに我國の資本主義は、この段階に於て、早くも行詰つたものである。

日本の資本主義は、極度に低い生活を強られて來た比叢の、極度に低廉な労働を基礎として、即ち原始的にして無制限な労働採取によつて、儼に成立つてゐるものである。然るに、斯やうな基礎の上に資本主義の發達し得る限界は、自ら定まつてゐる。我國の資本主義は、最早現在の基礎の上には、これ以上の發達をなすべき餘地がない。日本の資本主義は國際資本主義の一部として行詰つてゐる上に、特殊な事情の下に、二重の意味に於て行詰つてゐる。

その結果は、一方には、個々の資本家が生産量の低減によつて、目前の破滅を免れやうとする盲目的の努力と